

【活用にあたって】

税金とは、私たちの生活や社会を支えるために、人々から集めるお金のことです。授業では、働く人の収入にかかる税金（所得税）、ものを買ったときにかかる税金（消費税）などがあることを学びます。学校によっては、税務署などによる出前授業が行われ、より詳しい内容を学ぶこともあります。

子どもたちにとって、消費税などは身近なものとして捉えやすいかもしれませんが、しかし、それ以外の税金については、実感をもって捉えにくいでしょう。また、税金の使い方を国会や地方議会で決めていることは、さらに実感をもちにくいと思われれます。そんな中において、新聞記事はリアリティーをもって自分の事として学ぶきっかけ作りになります。

次ページに、2021 年 5 月 8 日付記事も掲載します。

解答例

問 1 : ㊶ 富山県 ㊷ 岐阜県 ㊸ 石川県

問 2 : 特産のスルメイカ(水揚げ量は日本有数の多さ)をPRし、観光に訪れてもらうため。

問 3 : 新型コロナウイルスへの対策として、3千万の税金をかけて、像を作ったから。

問 4 : 正しい正しくないというだけでなく、話し合いを通して、税金の働きについて考えることが大切です。

コロナ交付金 イカに!?

石川・能登町

巨大モニュメント 世界が関心



石川県能登町越坂の観光交流施設「イカの駅つくもーる」に設置された巨大なイカのモニュメントに多額の税金が投じられたことについて、英BBC放送（BBC）など海外メディアが続々と報道している。主な理由は、国の新型コロナウイルス感染症対策の地方創生臨時交付金、千五百万円が設置費用に充てられたことだ。町内でも賛否が割れる交付金の使い道は、海を越えて波紋を広げている。（榑原大騎、加藤豊大）



「日本の海沿いにある町が新型コロナウイルスの交付金で巨大なイカの像を設置し、物議を醸している」。BBCはウェブサイトに掲載した四日付の記事で、こう切り出す。コロナ禍で能登町の観光客が減っていると記述。北陸中日新聞の報道を引用しながら「交付金は直接のコロナ対策に充てる必要はない。だが、パンデミック（世界的大流行）が収束しない中、巨大イカに多額の費用が使われたことに批判の声がある」などと指摘した。

モニュメントは高さ四層、全長十三層、幅は最大九層。四月に完成した。航空機やレーシングカーなどに使う繊維強化プラスチック（FRP）製で、制作費は計三千万円。内訳は交付金二千五百万円、町費五百万円。全国有数の水揚げを誇る能登町の小木港特産のスルメイカをPRするのが狙いだ。

町「観光誘客に活用」 住民「他に使い道が…」

取って写真を撮ることができると描写した。米国のニューヨーク・タイムズや韓国メディアなども取り上げている。人口一万六千人ほどの小さな町が世界の注目を集める事態に、地元では困惑の声が上がる。「海外まで話題が波及するとは…率直に驚いた」と打ち明けるのは、町ふるさと振興課の担当者。六日にも複数の欧米メディアから取材を受けたと話し「（臨時交付金の使途として）批判があることは受け止めている。観光誘客などに最大限活用し、理解を求めたい」と強調した。

一方、町民の胸中は複雑だ。六十代女性は「こういう形で能登町が世界に知られるのは恥ずかしい。コロナ検査の充実など他に使い道があり、海外の人にとってもモニュメントとコロナ対策は結び付かないのでは」と指摘。四十代男性は「結果的に人が集まったとしても、今後は税金の使い道はしっかり議論してほしい」と注文した。

六日にイカの駅を取材で訪れた独ニュース制作会社「ラブリィTV」の女性記者（匿名）は、BBCの報道で世界の関心が高まったと分析。「交付金の使途の是非という論点に加え、フィギュア文化の根付く日本らしいカルチャーとしても受け止められ、高価で巨大なイカの像に驚いているようだ」と話した。